

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・湯村		
所在地	甲府市湯村3-11-10		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのニーズに合ったケアをするように心がけ、家庭的な雰囲気の中で、家族にもゆつたりとくつろいでもらえるような心地よい空間作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設に児童養護施設、特別養護老人ホームがあり、行事や外出が共同で運営され、研修等も系列の事業所と定期的に開催されている。居室は、明るく広いスペースが用意されていて、旅館の襖を活用した入り口は、個人のプライバシーが確保されながらも、自宅での襖の開閉に近い温かさを感じさせられた。広いロビーには、利用者の作成した細かな切り込みのある折り紙が天井一面に装飾されて、温かい感じの雰囲気を感させる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校・湯村 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心して笑顔で、一日一日を大切に過ごしていただく」という理念を実践につなげるように努めている。		理念については、毎日朝礼で唱和し、共有化を図られていて、業務の中で自然に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加するようにしている。また、運営推進会議などを活用して、意見交換に努めている。		併設に特別養護老人ホームや児童養護施設があるため、地域に理解があり、祭りや行事に参加している。地域の中学生に夏休みやクリスマス会にボランティアとして協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することにより、徐々に認知症の人への理解を深めてもらおうと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員会議等で報告し、職員全体に周知すると同時に、その意見をサービス向上に取り入れている。		民生委員・家族の代表・地域包括支援センター・自治会・旅館組合等がメンバーとなり、隔月第3火曜日の10時より開催しているが、事業所からの報告が主な物となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	お会いした際には報告し、相談にのってもらうようにしている。		福祉・介護の制度等に関して、丁寧に相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに従い、安易に拘束しないよう職員に周知徹底をしている。また、研修会や会議等でも折に触れて会議をしている。		従来の身体拘束は、まったく感じられないが、スピーチロックに関しては、注意はしているが、まだ難しいものがある。帰宅願望があった場合、制止するのではなく、共に同行し気分転換するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが意識を持ち、虐待防止に努めている。また、日頃から利用者には尊厳を持って接するよう話し、言葉の暴力にも気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場などで取り上げ、制度を理解するように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は出来るだけ丁寧に行い、家族と確認しながら進めている。また、日頃から家族との連絡を密にして、気軽に会話できる雰囲気出来るように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の時に気軽に話してもらっている。また、玄関に意見箱を設置して要望や苦情等を記入してもらい、その意見等には速やかに対応できるよう心掛けている。	家族の意見は、面会時に聞くようにしている。面会の少ない家族には、定期的に電話し聞くようにしている。利用者の意見は処遇会議に反映させている。意見箱への投稿はほとんどない。	家族やボランティアの協力を得られるような工夫を期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞き、反映できる点は積極的に取り入れている。	日々、意見の出しやすい環境整備で、職員も運営に関して、気楽に提案できている。大きな問題に関しては、全体会議や処遇会議に提案し、改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用の際に希望をできるだけ聞き入れ、賞与等では、勤務評定を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を月1回、法人内部研修を2か月に1回開催し、また地域包括支援センターの研修にも積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの交流会があれば、参加している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや家族の要望等を考慮して、本人に合ったケアを行っている。また、日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を築くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が意見や要望を話しやすいように、日頃から連絡を取り合う努力をしている。面会の際も気軽に声をかけて雰囲気作りに心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変に柔軟な対応に常に心がけ、利用者にとって何が最良かを常に考えながら支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を心がけ、自分の身内が利用しても安心して生活できるような環境、関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会以外にも、事業所の行事等に参加してもらい、一緒に過ごしてもらう時間を出来るだけ多く作れるように配慮している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会ではゆっくりくつろいでもらい、いつでも気軽に来てもらえるような、雰囲気を作っている。	入居時に、馴染みのものを持参している。友人や近所の人にも温泉に来られた際に気軽に立ち寄ってくれている。馴染みの美容院にも行かれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気になるように職員全員で心がけ、利用者一人ひとりの要望を聞きながらも、仲間意識を持って支え合えるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もできる限りサマリーや荷物の受け渡しなどスムーズに進むように配慮に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話を聞いて、本人らしく過ごせるように配慮している。自分の意思が伝えられない人は家族から要望を聞き、対応をするように心がけている。	趣味等を把握し、歌などは職員のギター演奏で楽しんでいる。調理の好きな人には、おやつ作りを一緒にしている。リハビリ体操を自分で行なえる人には、安全に注意し見守っている。1階にある足湯を楽しまれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りを行い、生活歴を職員も把握した上でケアにあたっている。また、入居後に孤立しないように配慮しながら、本人らしく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・日課表などで、本人の一日の過ごし方等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回行われる全体会議で処遇を検討して、計画などに反映させている。	毎月の処遇会議にて、状況の変化や面談時の家族の要望を新たな計画に活かしている。失禁や放尿のある利用者に対し、全員が同じようなケアができるよう話し合い、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の記録をつけながら、介護計画に沿ったケアが出来ているか検討し、処遇会議等でも職員間で意見交換をしながら実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院リハビリや個別にミネラルウォーターの飲用や散歩など個々のニーズに柔軟なサービスを試みている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところは家族の話聞く範囲に留まっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内のクリニックの事などを家族に説明し、以前よりかかりつけ医がある場合は、継続して受診できるよう送迎などの対応をしている。	クリニックへの通院は、サマリーを作成して持参し、特別養護老人ホームの協力を得て送迎の支援をしている。医師からの医療情報がある場合は、ケース記録に記載し、職員で共有している。以前からのかかりつけ医の受診には、家族が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門的な見解を事業所の看護師や特別養護老人ホームの看護師などに相談するように努め、急変時の対応などができるように協力をお願いしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院との連絡を密にし、退院時にはカンファレンスを開いて情報をもらい状態に合った介護を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時のことを伺い、法人内にクリニックや特別養護老人ホームがあることを伝えている。	重度化や終末期に関しては、事業所の方針としては、法人内の介護療養型医療施設や特別養護老人ホームの利用が可能であり、入居時に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内部研修で救急法などを学ぶ機会を設けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練及び内部研修において消火訓練を実施している。	併設の特別養護老人ホームも含めて訓練を実施し、車椅子での避難も実施している。地域との災害時の協力体制がある。夜間の災害を想定して特別養護老人ホームと確認し、施設長が取りまとめ役で消防団との協力体制も確認されている。	夜間の緊急連絡体制を整備し、職員と地域の協力を得た訓練を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格が異なることを把握した上で人格を尊重した言葉かけなどに努めている。	体調不良で失禁のあった利用者には、他の利用者に知られずに対応している。個人の情報に関しては、利用者の前ではしないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の際は傾聴に努め、「○○しますか？」など本人の意志を伺うように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたい方やどうしたら良いか分からない方など、個人のニーズに沿った生活となるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好まれる服装ができるように、家族に協力をお願いしている。散髪は、ほぼ月1回希望者は行える。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に応じて、お絞りをたたんでもらったり、盛りつけ・お皿拭きなどしてもらっている。	通常の食事は、特別養護老人ホームと一緒に、職員が検食のために共に食事している。おやつのカッキー作りなどは利用者で作っている。麺類や巻き寿司などは、利用者と共に作り、好評を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りたがらない方や水分制限のある方がいるので、記録をとるようにしている。また、栄養については併設特別養護老人ホームの栄養士に相談するなどしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを利用したり、義歯は毎晩ポリドントで洗浄している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	処遇会議で排せつ方法を随時検討し、自立に向けたケアを目指している。	車椅子の利用者については、時間を見てトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の傾向にある方には、ヨーグルトやヤクルトの差し入れを検討していただいたり、受診の際に、医師に相談するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別養護老人ホームと合同の入浴となるなど週2回の入浴を現在は行っている。しかし、気分的に拒否する人は次回にするなど柔軟な配慮をしている。	入浴拒否のある利用者には、家族の対応をお願いしたり、気分を変えて入浴してもらえるようにしている。1階の足湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に一日離床しているのが難しい人は、昼食を挟んで午前・午後に仮眠を取ってもらうが、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が担当しているが、職員も服薬記録にチェックを入れながら誤薬や飲み忘れのないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の仕分けや食器拭きを自分の仕事と違って積極的にやってくれる人や、利用者の話の中心になって話題を提供してくれる人に、協力してもらいながら、過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が少ないので、他のユニットに気分転換に向いたり、行事の際は合同で参加している。今後は徐々に外出の機会を増やして利用者の希望をかなえていきたい。	外食への支援するのは難しいものがあり、家族と共に出かける時には家族が外食の支援をしている。日常的に近所のスーパーと一緒に買物に行くこともある。日常的にボランティアや家族の協力を得るのはまだ難しい。季節の催しは、特別養護老人ホームと合同で外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人が本人希望で所持しているので、紛失しないように声かけをしている。買い物に出かけた際にも、支払いや釣銭が間違いないか見守りを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人は自由に連絡を取っているが、持っていない人は本人の希望で職員が電話をかけている。また、職員が家族に用事で電話をする際には、本人に代わって話をしてもらう。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を飾ったり、季節ごとの花を飾って殺風景にならないように、少しでも季節感を味わってもらえるように、配慮している。	食卓には、季節の花が豪快に飾られ、折り紙の細かい切り紙を使った豪華なシャンデリアのような作品は、雰囲気の良い空間として心地よく配置されている。昔懐かしい炬燵の配置を検討している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内のコーナーごとにソファや椅子を置いて、どこでも腰を掛けておしゃべりしてもらえるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には家具を自由に持ち込んでもらい、本人のライフスタイルに合った居心地の良いスペースを作ってもらっている。	居室の装飾は家族が準備しそれぞれ個性のある空間が作られている。入り口は襖扉で、家庭的な雰囲気が伺えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内に手すりを巡らせ、転倒しないように配慮したり、所々に椅子等を置いて休憩しながらでも、自由に歩行できるように工夫している。			